

1 部門目標

- ・各モダリティの検査プロトコルの適正化への取り組み。
- ・各モダリティの専門性を高めるため、学会・研究会への参加を進める。
- ・効率的な検査室の運用のため、他部門との連携強化。

2 業務体制・スタッフ

業務体制は、日勤業務と夜間業務（準夜・深夜勤、当直）1名、休日業務（日直）1名の体制で行っている。また、夜間・休日は待機者1名をおき緊急検査に対応している。

この業務体制のもと、一般撮影室2室・CT室1室・X線テレビ室2室・乳房撮影室1室・MRI検査室1室・血管撮影室2室・核医学検査室1室・ポータブル撮影装置3台・手術室イメージ2台、リニアック1台、治療用CTシミュレータ1台を、常勤の診療放射線技師16名、非常勤診療放射線技師2名(会計年度任用職員)、受付業務3名(会計年度任用職員)、21名のスタッフで対応している。

3 業務実績

	令和3年	令和4年	令和5年	率(R4→R5)
CT	9,800	9,482	10,403	9.7%
MRI	2,668	2,697	3,012	11.7%
核医学検査	209	206	204	-1.0%
血管撮影	554	660	740	12.1%
乳房撮影	753	695	662	-4.7%
一般撮影(他)	25,814	26,047	26,827	0.3%
合計	39,798	39,787	41,186	3.5%

4 1年間の総括

令和5年度の総検査件数は41,186件で、前年度に比べ1339件増加した。令和5年5月に新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が「5類感染症」となったことに加え、脳神経外科の診療が開始したことにより、CT、MRI、血管造影の件数が増加した。各モダリティ別の検査件数は、CT:10,403件、MRI:3,012件、核医学検査:204件、血管撮影:740件、乳房撮影:662件、一般撮影他:26,827件で、令和4年度と比較して、CT:921件増(+9.7%)、MRI:315件増(+11.7%)、核医学検査:2件減(-1.0%)、血管撮影:80件増(+12.1%)、乳房撮影:33件減(-4.7%)、一般撮影他:85件増(+0.9%)であった。

令和5年3月に手術室内で新たに導入したパイプラインX線血管撮影装置(PILLIPS社製Azurion 7 B20/15)が稼動したことで、脳神経外科による脳血管内治療が実施可能となった。これにより、夜間休日も含め急性期脳梗塞に対する血栓回収術にも対応している。また、同血管撮影室では、小児科・成人先天性心疾患診療部の心臓カテーテル検査やアブレーション、循環器内科によるペースメーカー植込みなども実施しており、既存の血管撮

影室も含め効率良く利用することが可能となった。

令和 5 年 5 月には病院情報システムが更新され、電子カルテシステム(HIS)はソフトウェアサービス社製に変更、放射線情報システム・放射線治療システム(RIS)、PACS、画像読影システムは富士フイルム医療ソリューションズ社製に変更となった。また、富士フイルム IT ソリューションズ社製の「CITA」が導入され、電子カルテに読影レポートの未読通知機能が追加されたことにより、読影レポートの未読管理機能が強化された。

5 今後の目標

新病院への新築移転に向けて、救急科、脳神経外科、整形外科など、診療体制の強化が進んでいくことが予想される。今後は日勤帯の検査数の増加への対応に加え、夜間・休日の緊急検査への対応が必要になると予想される。このため、令和 6 年 3 月より、日曜日の宿直を勤務（準夜勤・深夜勤）に移行し、令和 6 年度中には月曜日、木曜日、金曜日の宿直及び土曜日、日曜日、祝日の日直を勤務への移行を進める予定である。

令和 6 年度は新病院に向けて放射線関連の検査機器の整備が本格化することから、最新の検査機器および検査技術の習得のため学会、研究会等への参加などスタッフの教育を進め、各診療科と連携をしながら機種選定を進めて行く予定である。新病院での導入計画と整合性をとり、新病院開院時に安定した検査環境を提供できるように計画的な更新スケジュールの立案を行っていく予定である。